

8月号 2017年8月20日発行(毎月1回20日発行)6月20日発売 第28巻8号(通巻494号) 1990年7月1日第三種郵便物認可

# フィガロジャポン

The logo for Madame Figaro features the word "madame" in a white, cursive, handwritten-style font at the top left. Below it, the word "FIGARO" is written in large, bold, yellow capital letters. The letter "F" has a black bowtie graphic on its left vertical stroke. The background is a blue sky with white clouds.

本誌も

madame FIGARO・jp も

新しいフィガロ  
発信中!

A scenic landscape of rolling green hills and mountains under a cloudy sky, serving as a background for the text.

# 大好きがたくさん詰まつた

プレフォールも我が道を行く!  
独断と偏愛の最新ワードローブ。

**重い腰上げ軽やかに!  
3日でキレイ、ウィークエンド美容。**

## セルゲイ・ポルーニン

METコムデギャルソン展  
間が示唆する革新の精神。

# 羊飼いと一緒に、バスクの自然をまるごと満喫。

ビルバオから少し離れた山間の村、アバディニョに広がる羊牧場。バスクの醍醐味である自然を味わうなら、1日だけ羊飼いになつてみませんか？



柵から出た羊たち、「アウレラ（進め）！」などバスク語で追いかける。先頭には誘導役のボーダーコリー。

遙か昔、アバディニョ村で人々が暮らし始めた頃から、生活をともにしていたのがラチャという羊たち。良質なミルクを出すため、国のD.O.（原産地呼称認定）を受けたチーズ、イディアサバル作りに欠かせない。このミルクやチーズを作ることで生活をしているのが村の羊飼いたちだ。

## はりきる牧羊犬に連れられて。

体験ツアーに参加した私たちの前で、羊飼いパチ・ソラナは「前日も停電だった」とさりとと言う。小屋には3匹の牧羊犬と猫、群れからはぐれた羊が縦横無尽に動き回り、さつきまで滯在していたデザインシティ、ビルバオとのギャップを感じる。戸惑いを隠しきれないまま、羊飼いデビューの時間がやってきた！が、私たち以上に興奮しているのは犬たち。彼らは点在する羊を中心と最後尾で羊を挟み込める際には先頭と最後尾で羊を挟み込

み、見事に誘導する。なんとも自信に満ちた表情をしているのがほほ笑ましい。「こんなに勢いよく走るんだ！」柵を走り抜けた羊は、想像以上に素早く、参加者の子どもが群れに巻き込まれそうになるほど。それでも歩き始めれば羊は穏やかで暴れる事もない。集団から遅れ気味のマイペースな羊の後ろに回り、さりげなく促すと、羊との距離も縮まってきた。ワイルドなウルキオラ山地に閉まれ、深呼吸をしてみたくなる。羊飼いになるということは、山々とともに生きていくということ。歴史あるバスクの地で実感できるのは、とても贅沢なことに思えた。



ビルバオ郊外で羊飼いになるなら。

## アユイツ・ナトゥラ

Alluitz Natura

Barrio Mendiola 25, 48220 Abadiño ☎ 688-87-51-20 開催時間：10時～14時 ④一般18ユーロ カード不可 要予約 <http://triptobasquecountry.com/en/a/18-pastor-por-un-dia>

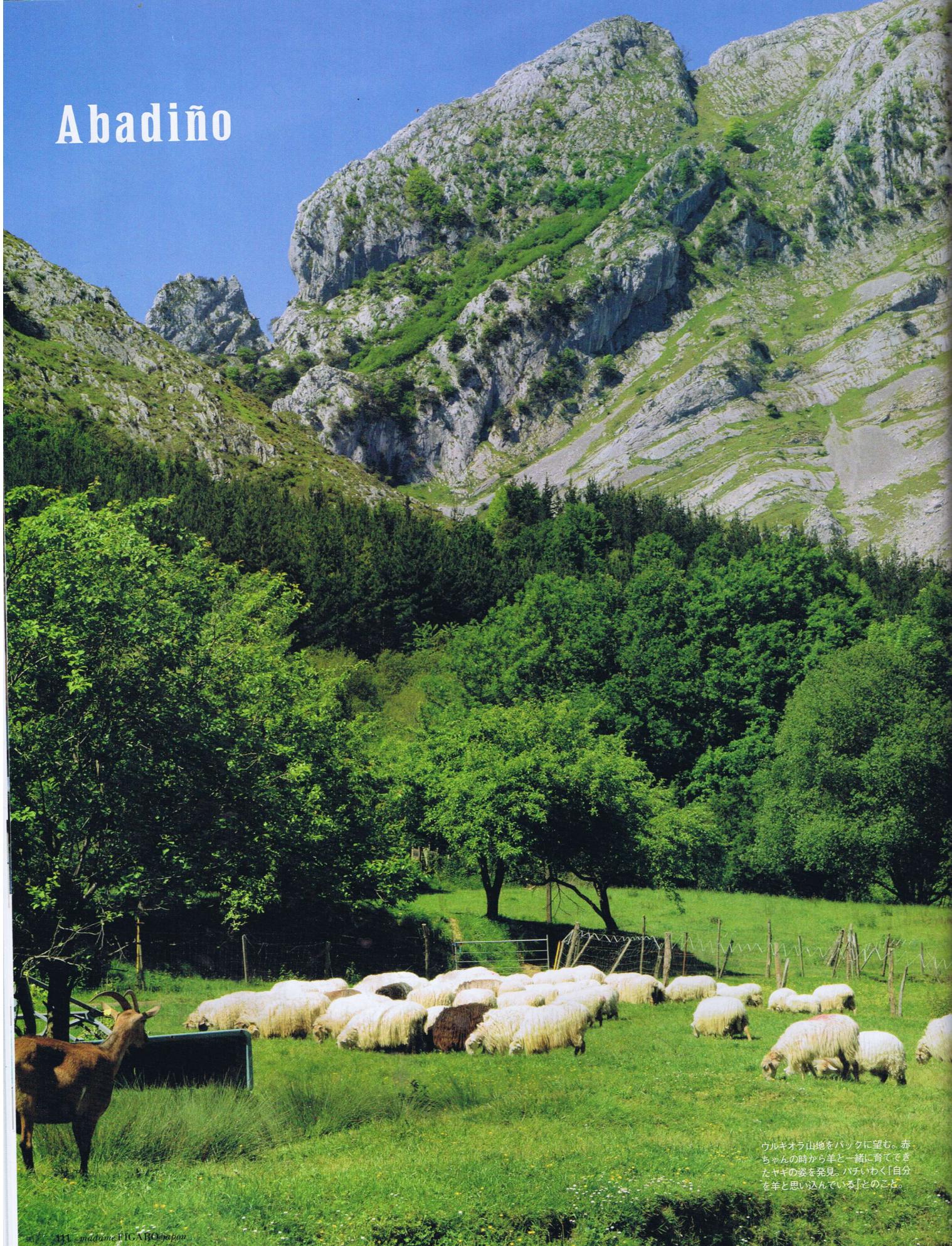
●アバディニョへのアクセス：ビルバオから車で約45分。

1.手前が体験コースで作った羊のミルクプリン、クラハーダ。奥の自家製イディアサバルは購入することも可能。ホール19.50ユーロ



2.ミルクの中には凝固剤として乾燥させた羊の胃がある。3.仕事前はリラックスモード。4.3日前に生まれた子羊を守ろうと、神経質になっていた母親羊。

# Abadiño



ウルキオラ山地をバックに望む。赤ちゃんの時から羊と一緒に育ててきたヤギの姿を発見。ハチいわく「自分を羊と思い込んでいる」とのこと。